

岐阜県中部山岳国立公園 活性化基本計画

- 活力ある乗鞍・奥飛騨地域を目指して -

岐 阜 県

清流の国ぎふ憲章

～ 豊かな森と清き水 世界に誇れる 我が清流の国 ～

岐阜県は、古来、山紫水明の自然に恵まれ、世界に誇る伝統と文化を育んできました。豊かな森を源とする「清流」は、県内をあまねく流れ、里や街を潤しています。そして、「心の清流」として、私たちの心の奥底にも脈々と流れ、安らぎと豊かさをもたらしています。

私たちの「清流」は、飛騨の木工芸、美濃和紙、関の刃物、東濃の陶磁器など匠の技を磨き、千有余年の歴史を誇る鶺鴒などの伝統文化を育むとともに、新たな未来を創造する源になっています。

私たち岐阜県民は、「清流」の恵みに感謝し、「清流」に育まれた、自然・歴史・伝統・文化・技をふるさとの宝ものとして、活かし、伝えてまいります。

そして、人と人、自然と人との絆を深め、世代を超えた循環の中で、岐阜県の底力になり、100年、200年先の未来を築いていくため、ここに「清流の国ぎふ憲章」を定めます。

「清流の国ぎふ」に生きる私たちは、

知

清流がもたらした

自然、歴史、伝統、文化、技を知り学びます

創

ふるさとの宝ものを磨き活かし、

新たな創造と発信に努めます

伝

清流の恵みを新たな世代へと守り伝えます

平成26年1月31日「清流の国ぎふ」づくり推進県民会議

目次

第1章	計画の目的	
(1)	目的 1
(2)	策定の経過 1
第2章	基本的な事項	
(1)	対象地域 2
(2)	計画期間 3
(3)	計画の位置付け 3
第3章	目指すべき姿	
(1)	コンセプト及び取組方針 4
(2)	中部山岳国立公園の目指すべき姿 4
(3)	取組みの指標 5
第4章	具体的な施策	
(1)	全体像 7
(2)	施策の内容 8
取組方針1	豊かな地域資源を知る 8
取組方針2	強みを活かし、魅力・活力を創る 10
取組方針3	乗鞍・奥飛騨らしさを守り、後世に伝える 14
(3)	イメージ戦略の構築と情報発信・プロモーション 17
(4)	スケジュール 19
第5章	計画の推進 20
第6章	広域連携 22
参考資料		
1	中部山岳国立公園（岐阜県区域）の概況 23
2	岐阜県中部山岳国立公園活性化懇談会 24
3	取組項目ごとの事業内容・スケジュール 25

<この計画における年度の表記について>

天皇の退位等に関する皇室典範特例法（平成29年法律第63号）により、平成31年に皇位の継承が行われる予定ですが、皇位の継承に伴い、元号が改められる予定です。

この計画の策定時点では、新しい元号が定められていないことから、皇位の継承が行われる予定の日以降の暦年・年度の表示についても、現在の元号である平成を用いることとし、西暦と併記するものとします。

第1章 計画の目的

(1) 目的

中部山岳国立公園及びその周辺地域（第2章（1）の対象地域をいいます。この計画では、断りのない限り、同公園と周辺地域をあわせて「中部山岳国立公園」と表記します。）は、雄大な山岳景観、高山植物などの貴重な自然や豊富な温泉といった豊かな自然環境に恵まれた国内屈指の山岳観光地ですが、近年、来訪者の減少が続き、地域の活力の低下が懸念されています。

我が国の国立公園制度では、居住地域であるかどうかに関わらず、優れた自然の風景地を保護するために必要とされる地域が公園に指定されており、貴重な自然環境や景観と居住地が近接しているのが大きな特徴となっています。そのため、公園内や周辺地域の住民と行政が連携して、自然環境や景観の保全のための取組みを行っており、中部山岳国立公園においても、公園内や周辺地域の方々と行政が連携して、自然環境や景観の保全を図っています。

しかし、来訪者の減少傾向が続き、地域の活力が低下すると、地域住民と行政の連携による自然環境や景観の保全が困難になることも懸念されます。

こうした状況を踏まえ、同公園の貴重な自然環境を保全するためには、公園の活性化による持続可能な地域づくりを進める必要があるとの観点に立って、平成29(2017)年7月に「岐阜県中部山岳国立公園活性化基本構想」（以下「基本構想」という。）を策定しました。

この計画は、基本構想の趣旨を踏まえ、同公園に関わる行政機関や地域の団体、住民が一体となって、同公園の活性化を図ることを目的として、その目指すべき姿やそれぞれの役割を明らかにするとともに、基本構想で示した取組方針に沿って、今後、取り組む事項を取りまとめたものです。

(2) 基本構想及び基本計画の策定経過

基本構想及び基本計画の策定に当たっては、地域の課題や取組みを反映させることが必要であり、地域の観光、経済、山岳等の関係者や関係行政機関との間で継続的に意見交換を行いながら、検討を進めてきました。

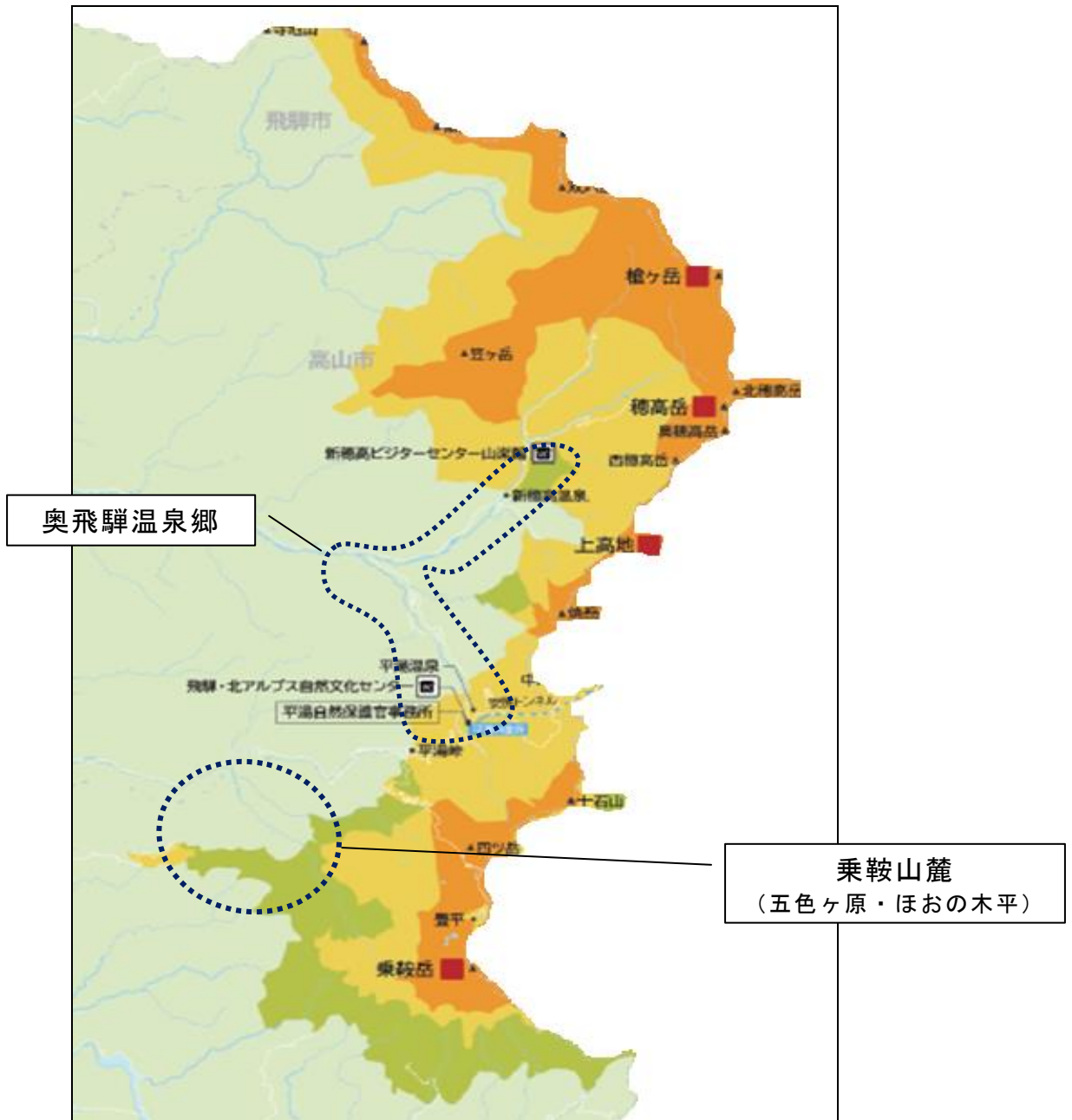
また、国立公園や温泉地の活性化等に関する知見を計画に反映し、計画の実効性を高めるため、有識者、地域の経済、観光関係団体や関係行政機関の代表者で構成される岐阜県中部山岳国立公園活性化懇談会において検討を行い、計画として取りまとめました。

第2章 基本的な事項

(1) 対象地域

計画の対象地域は、基本構想で定めた対象地域（本県の中部山岳国立公園及び隣接する乗鞍山麓、奥飛騨温泉郷）と同一とします。なお、対象地域外で行われている取組みであっても、同公園と密接に関連する取組みは、計画の対象とします。

図 計画の対象区域



(2) 計画期間

この計画期間は、平成 30(2018)年度から平成 34(2022)年度までの 5 年間とします。

(3) 計画の位置付け

この計画は、基本構想を具体化し、関係機関や地元関係団体等が一体となって活性化を図るための道筋を明らかにするものとして策定しました。

また、中部山岳国立公園南部地域管理計画書（平成 25(2013)年 2 月、環境省長野自然環境事務所）、岐阜県環境基本計画（平成 28(2016)年 3 月、岐阜県）、岐阜県成長・雇用戦略 2017（平成 29(2017)年 3 月、岐阜県）、清流の国ぎふ創生総合戦略（平成 29(2017)年 7 月改訂、岐阜県）、高山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 27(2015)年 10 月、高山市）、飛騨高山ブランド戦略（平成 28(2016)年 3 月、高山市）等、国・県・高山市が策定した関連計画との整合を図りながら、策定しました。

第3章 目指すべき姿

(1) コンセプト及び取組方針

基本構想において、この地域の大きな特徴（強み）である大自然、温泉、食や文化を活かしながら、より多くの方に訪れていただく地域づくりを進めるため、取組みのコンセプトと取組方針を次のとおり設定しました。

この計画は、基本構想を具体化するものであることから、基本構想で設定したコンセプト及び取組方針に基づいて、具体的な取組みを定めることとします。

【コンセプトと取組方針】

【コンセプト】

誰でも体験できる3,000m級の高山帯、
飛騨^{ひだびと}人のもてなしと露天風呂めぐり

【方針1】豊かな地域資源を「知る」

- 豊かな地域の魅力を知り、誇りを醸成
- 飛騨山脈の「大地と自然の恵み」を学ぶ

【方針2】強みを活かし魅力・活力を「創る」

- 乗鞍・奥飛騨の魅力の発掘・磨き上げ・発信
- 持続的な活力の創出

【方針3】乗鞍・奥飛騨らしさを守り、後世に「伝える」

- 自然の保護と利用の両立
- 乗鞍・奥飛騨の魅力を守り伝える人づくり

(2) 目指すべき姿

この計画に基づく取組みについては、関係機関や地元関係団体等が連携を図りながら、その効果を高めていくことが必要です。また、継続して取組みを進めるためには、対象地域の住民・事業者の理解や協力が必要です。

そこで、関係機関・団体、更には住民・事業者が認識を共有しながら、取組みを進めることができるよう、中部山岳国立公園の中長期的に目指すべき姿を次のとおり設定します。

【中長期的に目指すべき姿】

地域の人々が誇りをもって暮らし、語る事ができる、持続可能な地域となること

この地域の人々が、自然、温泉、食、文化といった地域の強みに対する認識を深め、一人ひとりが誇りをもって暮らしながら、訪問者に対して地域の魅力を語る事ができる地域となることを目指します。そして、一人ひとりの誇りが地域の活力に繋がりを、持続可能な地域となっていることを目指します。

地域の魅力に惹かれた人々が国内外から集い、滞在・交流する地域となること

貴重な自然や温泉と、人々が誇りをもって暮らす地域が一体となった魅力的な国立公園として、国内外から多くの人々が訪れ、長期滞在しながら、地域の人々や他の訪問者と交流できる地域となることを目指します。

地域の人々とこの地域を愛する人々によって、かけがえのない大自然が持続的に維持され、我が国の豊かな自然環境を代表する場所として認知される地域となること

地域の人々とこの地域を愛する人々が、相互に協力しながら、かけがえのない大自然の保全を進める事ができる地域を目指します。そうした取組みを通じて、この地域が豊かな自然環境を代表する場所として国内外に広く認知される地域となっていることを目指します。

(3) 取組みの指標

この計画に基づく取組みについては、客観的な指標により継続的に効果を確
認しながら、P D C A (P=Plan(計画),D=Do(実行),C=Check(検証),A=Action(見
直し)) サイクルにのっとり、必要な見直しを行うこととします。そこで、計画
期間中、下表に掲げる指標項目について、継続的に数値を把握することとしま
す。

なお、指標項目の中には、現時点では調査を行っていない項目も含まれてい
ますが、そうした項目についても、平成 30(2018)年度以降、この計画の取組み
とあわせて、順次調査を行い、取組みの効果を把握することとします。

表 指標項目

入込客数	中部山岳国立公園	全体
		うち外国人
	乗鞍岳	
	奥飛騨温泉郷（宿泊者数）	
旅行消費額		
来訪者満足度（再来訪の意向）		
リピーター率		
環境教育等の利用人数	教育旅行入込者数	
	乗鞍学習プログラム利用者数（県内）	
	公園内ガイドツアー等利用者数	
中部山岳国立公園（岐阜県）の自然ガイド人数		
参加型環境保全・登山道維持活動の参加者数		
乗鞍岳の環境保全状況	大気環境	二酸化硫黄
		二酸化窒素
		一酸化窒素
	植生等	植生種類数
		植被率

第4章 具体的な施策

(1) 全体像

基本構想において示された取組方針を具体化するため、次のとおり施策項目を設定し、取組みを進めることとします。

<中部山岳国立公園活性化に向けた取組方針と具体的な施策項目>

【コンセプト】

誰でも体験できる3,000m級の高山帯、
飛騨人^{ひたびと}のもてなしと露天風呂めぐり

【方針1】豊かな地域資源を「知る」

1-1 豊かな地域の魅力を知り、誇りを醸成

- ・豊かな自然を知り、誇りを醸成する経験機会の創出
- ・飛騨山脈ジオパーク構想の取組推進

1-2 飛騨山脈の「大地と自然の恵み」を学ぶ

- ・大学や研究機関との連携交流の推進
- ・環境教育の推進

【方針2】強みを活かし魅力・活力を「創る」

2-1 乗鞍・奥飛騨の魅力の発掘・磨き上げ・発信

- ・魅力ある体験プログラムの造成
- ・ONSEN・ガストロノミーツーリズムの推進
- ・誰でも容易に到達できる日本最高所の進化
- ・最先端の情報技術を活用したアプリケーションの開発研究
- ・温泉地の賑わいづくり
- ・安全・安心な登山環境づくり
- ・景観の改善の検討
- ・二次交通の充実

2-2 持続的な活力の創出

- ・高山市街地と国立公園のシームレス化
- ・人材の交流、活躍の場づくり

【方針3】乗鞍・奥飛騨らしさを守り、後世に「伝える」

3-1 自然の保護と利用の両立

- ・総合的な利用拠点（ビジターセンター）の整備
- ・乗鞍岳の環境保全対策の進化
- ・快適な自然公園施設の整備

3-2 乗鞍・奥飛騨の魅力を守り伝える人づくり

- ・質の高いガイド人材の育成
- ・参加型の環境保全・登山道整備の推進

(2) 施策の内容

基本構想において示した取組方針を具体化するため、次に掲げる取組みを進めます。それぞれの実施主体は、より大きな効果が得られるよう、情報共有を図りながら、連携して取組みを推進します。

【取組方針 1】豊かな地域資源を「知る」

1 - 1 豊かな地域の魅力を知り、誇りを醸成

① 豊かな自然を知り、誇りを醸成する経験機会の創出

中部山岳国立公園の魅力を高めるためには、担い手である地域住民が、誇りをもって暮らし、魅力を語れることが重要です。公園の魅力を知り、自ら語ることでできる住民の増加につながる取組みを進めます。

【取組み】

- 岐阜県民、とりわけ高山市民が、中部山岳国立公園の魅力を体感し、地域への誇りを育むガイドツアーを実施。
- 上流域と下流域の児童・生徒が身近な自然とその保護の取組みについて語り合い、「清流の国ぎふ」の誇りを育む交流会を開催。
- 中部山岳国立公園と人間の関わりの歴史（開山史、乗鞍岳における登山道路建設や宇宙観測の歴史など）を広く学ぶ機会を創出。
- ビジターセンターや各地域の観光施設等を活用して、地域の住民と来訪者が中部山岳国立公園や奥飛騨温泉郷の魅力を語り合う機会を創出。

② 飛騨山脈ジオパーク構想の取組推進

中部山岳国立公園は、約5億年前から現在に至る様々な地層が見られる地質の宝庫であり、地球の生き立ちを学ぶことのできる全国でも数少ない地域です。

地域の自然や地質をフィールドとして、子どもから大人までがその多彩な魅力を気軽に学ぶ機会を増加させ、ジオパーク構想の取組みを通して、故郷を誇りに持つことのできる地域づくりを推進します。

【取組み】

- 飛騨山脈ジオパーク構想の取組みを推進。
- 地域住民が、飛騨山脈ジオパークに関する認識を深めるための出前講座やフォーラムを開催。
- 地域の小中学生が、飛騨山脈ジオパークについて学習するための学習プログラムの構築。
- 飛騨山脈ジオパークの魅力を体験できるジオツアープログラムの造成と担い手となるジオガイドの養成。
- ビジターセンター等の国立公園の利用拠点において、ジオパーク関連の展示や学習会の開催を検討。

1-2 飛騨山脈の「大地と自然の恵み」を学ぶ

① 大学や研究機関との連携交流の推進

中部山岳国立公園のほか、周辺の高山市上宝町などにおいては、宇宙線や天体観測をはじめ、地震、火山や砂防など、地域の特性に応じた多様な分野の観測研究が行われているほか、貴重な自然環境をフィールドとした研究も行われています。

こうした観測や研究を行っている学術機関との連携交流を進め、住民や来訪者が、学術的な意義など、同公園の多角的な魅力を知ることのできる取組みを進めます。

【取組み】

- 公園及び周辺地域に立地する観測・研究施設をはじめとする大学・研究機関と行政・地元の連携交流を促進。
- 観測施設の見学会やビクターセンターにおける展示等、この地域における研究成果を知るための取組みを推進。

② 環境教育の推進

中部山岳国立公園の豊かな自然や貴重な動植物に親しみ、理解を深めることができる機会を創出し、子どもたちの自然や山岳への親しみを深めます。特に、バス等の交通手段により容易に標高の高い地点まで到達できる特性を活かし、同公園を学習フィールドとする環境教育を推進するとともに、教育旅行の誘致に取り組めます。

また、温泉、河川や地質（化石）等、この地域の多様な環境教育の素材を活かした環境教育プログラムを構築し、総合的な環境教育のフィールドとしての活用を推進します。

【取組み】

- 小中学生が高山帯の動植物をはじめとした貴重な自然環境を学ぶための環境教育プログラムを構築（乗鞍岳畳平～剣ヶ峰、五色ヶ原の森等）。
- 温泉、河川、地質（化石）や食品廃棄物の抑制対策（食品ロスの削減）など、地域の多様な環境教育の素材を活かした環境学習プログラムを構築。
- 現地におけるフィールド学習を促進するための支援制度の検討。
- 生物多様性等をテーマとする自然環境学習や出前講座を開催。
- 新たに構築する環境教育プログラム等を活用し、教育旅行を誘致。

【取組方針 2】強みを活かし、魅力・活力を「創る」

2 - 1 乗鞍・奥飛騨の魅力の発掘・磨き上げ・発信

① 魅力ある体験プログラムの造成

乗鞍岳山頂域に広がる貴重な大自然や標高約 2,000 メートルの高地に広がる満天の星空といった、中部山岳国立公園ならではの資源を活かして、自然環境への負荷を最小限に抑制しながら、貴重な大自然を満喫することのできる魅力あるガイドツアープログラムの造成を進めます。

また、天候不良時や冬季にも楽しむことのできるプログラムの造成など、四季を通じたプログラムの造成と提供を進めます。

【取組み】

- 乗鞍岳山頂域（五ノ池、桔梗ヶ原、高天原等のエリア）に広がる貴重な大自然を体験し、堪能するためのガイドツアープログラムを造成。自然環境の保護と利用に配慮した持続可能なプログラムとするため、自然環境の保全状態等についての調査・試行などを通じて、最適な実施方法の確立を目指す。
- 乗鞍岳畳平や新穂高ロープウェイの夜間運行による星空観察会の継続的な開催に加えて、乗鞍岳夫婦松駐車場での星空観察会の開催に向けて検討。
- 特別天然記念物・ライチョウ（県鳥）の保護計画の策定と、その生態を学びながら観察するツアーについて検討。
- 乗鞍山麓五色ヶ原の森の新ルートの整備を促進。

② O N S E N ・ ガ ス ト ロ ノ ミ ー ツ ー リ ズ ム の 推 進

食、自然や文化といった地域の資源と温泉を楽しむ、新たな旅行の形態として提唱されている O N S E N ・ ガ ス ト ロ ノ ミ ー ツ ー リ ズ ム を 積 極 的 に 推 進 し、食や文化といった地域資源のブラッシュアップを図るとともに、中部山岳国立公園や奥飛騨温泉郷の認知度を高める機会づくりを進めます。

【取組み】

- O N S E N ・ ガ ス ト ロ ノ ミ ー ツ ー リ ズ ム の 普 及 を 図 る た め の ウ ォ ー キ ン グ イ ベ ン ト（O N S E N ・ ガ ス ト ロ ノ ミ ー ウ ォ ー キ ン グ i n 平 湯 温 泉）の開催。
- ガ ス ト ロ ノ ミ ー ツ ー リ ズ ム の 考 え 方 を 通 じ て、食や文化などの地域資源のブラッシュアップを推進。

③ 誰でも容易に到達できる日本最高所の進化

交通機関を利用して誰でも容易に到達できる乗鞍岳・畳平において、誰もが高山帯の自然環境を満喫できるよう、高齢者、障がい者、外国人や子育て世代

等の多様な利用に配慮した施設の整備に取り組めます。また、防災の観点からも重要な通信環境の充実を図ります。

【取組み】

○ユニバーサルデザインの観点を踏まえて、利用者の誰もが快適に利用することができるよう乗鞍鶴ヶ池集団施設地区（畳平）内の利用施設の整備・改修を促進。

＜主な内容＞

- ・お花畑木道の改修継続
- ・園路、園地のバリアフリー化検討（手すりの配置、オフロード用車いす配置等）
- ・車椅子でも通行できる鶴ヶ池周回歩道の検討
- ・畳平、剣ヶ峰における無料Wi-Fiの整備
- ・外国語対応した案内標識の設置
- ・肩の小屋トイレの改修
- ・乗鞍畳平バスターミナルの改修の検討

④ 最先端の情報技術を活用したアプリケーションの開発研究

景観や貴重な自然を満喫できない天候不良時に、本来の魅力を映像等によって体験したり、スマートフォンなどの端末を利用して、標識等では網羅できない情報や天候の急変、危険な動物の接近等の情報を取得できるようにするため、情報技術について最先端の研究が行われている本県の特徴を活かし、AR等の情報技術を活用したアプリケーションの開発研究を推進します。

【取組み】

○岐阜県と岐阜県情報科学芸術大学院大学（IAMAS）との提携により、天候不良時に中部山岳国立公園本来の魅力を体験したり、スマートフォンにより見どころ等の情報を取得することのできる最先端のアプリケーションの開発研究を推進。

⑤ 温泉地の賑わいづくり

国民保養温泉地に指定されている奥飛騨温泉郷は、一部が国立公園の区域であるとともに、中部山岳国立公園の利用客の滞在拠点としての機能も担っています。「奥飛騨温泉郷国民保養温泉地計画」（平成29(2017)年9月、環境省）等を踏まえて、魅力の磨き上げと発信を進めながら、温泉地の賑わいづくりを進めます。

【取組み】

○奥飛騨温泉郷国民保養温泉地計画に基づく温泉の利用の取組みを促進。

- ・温泉地ごとの誘客イベント（春～冬）の継続的な開催。
- ・温泉めぐり手形（「奥飛騨湯けむり達人」）の発行や指定露天風呂の無料開放など、奥飛騨温泉郷における温泉施設の利用の促進。
- ・長期滞在に向けた体験メニューのプログラム化の推進。
- ・温泉効用の多言語表記など、温泉の効用の周知方法の検討。
- ・ウォーキング、サイクリングと温泉の融合
- ・温泉熱等を利用した食の開発。

⑥ 安全・安心な登山環境づくり

飛騨山脈の岐阜・長野県境域は、急峻で危険な個所が存在することから、山岳遭難の防止に向けて進められている取組みを継続するとともに、登山者用駐車場のあり方について検討を進めます。

また、公園内には、3つの活火山（焼岳、乗鞍岳、アカダナ山）が存在しますが、地域住民の安全・安心の確保はもとより、観光や登山を目的とする来訪者に安心して訪れていただくことができるよう、引き続き火山防災対策の取組みを進めます。

【取組み】

- 安全な登山環境を確保するための登山道の点検・パトロールや登山者向けの啓発活動を継続して実施。
- トップシーズン（夏季）を中心とした新穂高地区の駐車場の混雑対策のあり方に関して、検討を実施。
- 焼岳や乗鞍岳の噴火を想定して、防災マップ等の情報提供を充実させるとともに、住民や来訪者（観光・登山客等）を対象に火山防災訓練や防災啓発活動を実施。
- 火山噴火を想定して、噴石の警戒区域内の公共施設の安全対策を推進するとともに、避難場所や避難誘導のための標識の整備を促進。

⑦ 景観の改善の検討

中部山岳国立公園の見どころの一つである山岳などの優れた自然景観を来訪者に満喫していただくため、平成 28(2016)年に施行された無電柱化推進法や高山市景観計画を踏まえて、景観の改善について検討を進めます。

【取組み】

- 高山市景観計画に基づく景観形成の取組みを推進するとともに、山岳などの優れた景観を楽しむことができるよう、無電柱化や屋外広告物の集約化などについて検討。

⑧ 二次交通の充実

高山市中心市街地を含む近隣都市から中部山岳国立公園エリアまで、及び同公園の拠点間の移動手段として重要な役割を担っている二次交通手段の充実を図るための取組みを進めます。

【取組み】

- 上高地、乗鞍高原等の長野県側拠点を含めた中部山岳国立公園南部地域における周遊性を確保するための二次交通手段の充実に向けた調査研究。
- 交通事業者間等の連携により、路線バスや高速バスを利用して国立公園内の拠点と近隣観光拠点をめぐることができる商品を造成、販売。

2-2 持続的な活力の創出

① 高山市街地と国立公園のシームレス化

高山市街地と中部山岳国立公園との間の史跡や田園風景を楽しみながら、トレッキング、サイクリングなどの多様な手段を用いて双方向に移動できる手法について、検討を進めます。

また、高山市街地と奥飛騨温泉郷の観光案内拠点間の連携を図り、同公園や市街地の見どころ・観光情報が容易に取得できる環境を構築します。

【取組み】

- 高山市街地と奥飛騨温泉郷の間に点在する史跡等を楽しみながら移動できるロングトレイル・サイクリングコースについて検討。
- 高山市街地・奥飛騨温泉郷の観光案内拠点（各観光案内所）とビジターセンター等の国立公園利用拠点における観光、山岳、自然等の情報の相互提供の実施。
- 高山市街地と奥飛騨温泉郷の間を結ぶ特徴的なバス交通商品の開発について検討。

② 人材の交流・活躍の場づくり

地域の持続的な活力の創出を図るため、国内外から、山岳・自然・観光等に関するフィールド研究をはじめとした教育研究活動の受け入れを進めるとともに、こうした分野に携わる人材が、この地域を拠点として活躍するための方策について検討を進めます。

また、新たに整備するビジターセンターが、この地域の活力づくりの拠点としても機能するため、安定的に運営、サービスできる体制を構築します。

【取組み】

- 大学等の研究機関が行うフィールド教育・研究活動を積極的に誘致。
- 山岳、自然や観光等に携わる人材が、この地域を拠点として活躍・交流するための方策について検討。
- ビジターセンターが安定的に運営、サービス提供できる体制を構築。

【取組方針 3】乗鞍・奥飛騨らしさを守り、後世に「伝える」

3 - 1 自然の保護と利用の両立

① 総合的な利用拠点（ビジターセンター）の整備

中部山岳国立公園は、公園内の見どころやガイドツアー等の情報を提供する利用拠点が、乗鞍や新穂高などの地域ごとに設置されています。しかし、地域ごとの情報を集約し、一元的に発信したり、環境教育やガイド活動の拠点の役割を果たすことのできる総合的な拠点施設が存在しません。

こうした課題に対応するため、奥飛騨温泉郷平湯地域に、国立公園の総合的な利用拠点となるビジターセンターを整備します。

なお、新たなビジターセンターは、周辺観光地を含めた観光情報の提供やツアーデスクの設置等、利用者の幅広いニーズに対応できる施設として整備し、国立公園及び地域の総合窓口として機能する施設を目指します。

【取組み】

○奥飛騨温泉郷平湯地域において、中部山岳国立公園の総合窓口となるビジターセンターを整備。

＜新たなビジターセンターの機能＞

- ・国立公園の総合的な情報発信機能
- ・環境教育の拠点機能
- ・ガイドの活動拠点、養成機能
- ・周辺観光地を含めた観光・交通情報の提供等の総合案内機能
- ・ツアーデスク
- ・その他滞在環境の充実に必要な機能（手荷物預かり、物販施設等）

② 乗鞍岳の環境保全対策の進化

乗鞍岳では、乗鞍スカイラインのマイカー規制、乗鞍環境保全税を活用した環境保全対策や乗鞍山麓五色ヶ原の森におけるガイド同行者以外の入山制限など、先進的な環境保全対策に取り組んでいます。こうした取組みの成果を発信するとともに、最新の環境技術等の動向を踏まえた環境保全対策のあり方について、継続的に検討を進めます。

【取組み】

○これまでに実施した環境保全施策の効果（植生の回復、ライチョウの安定的な生息等）の積極的な情報発信と「環境保全型観光地」としてのブランド化の推進。

○乗鞍岳における自動車利用のあり方について、継続的な検討を実施。

○特別天然記念物・ライチョウ（県鳥）の保護を図りながら、保護を前提として生態を観察するためのツアーについて検討。（再掲）

③ 快適な自然公園施設の整備

中部山岳国立公園の区域内には、トイレをはじめとする自然公園施設や登山道が整備されていますが、老朽化が進んでいるものや厳しい自然環境の中にあつて整備が必要となっているものがあります。こうした施設について、利用者目線に立った整備を進めます。

また、同公園内の案内標識は、設置数が少なく、設置者ごとにデザインも異なっており、多言語対応も進んでいません。

国立公園内の統一感を醸成するとともに、利用者が求めている情報を的確に伝えることのできるよう、「中部山岳国立公園登山道標識統一基準」や「国立公園統一マーク」を踏まえて、統一感のある案内標識の整備を進めます。

【取組み】

- トイレの改修（洋式化）や新規整備など、利用者の目線に立った自然公園施設の整備を推進。
- 国立公園内の登山道や遊歩道について、改修や新規整備を推進。
＜主な登山道・遊歩道＞
 - 乗鞍岳：お花畑木道、鶴ヶ池集団施設地区内の遊歩道（魔王岳・大黒岳）、恵比須岳登山道、五色ヶ原の森新ルート
 - 槍・穂高：千石園地～西穂山荘間登山道、槍平南岳線
 - その他：自然探勝路（平湯）
- 既存の案内標識の多言語化・デザインの統一化を図るとともに表示内容を充実。また、関係者間で新規整備が必要な場所を検討し、整備を促進。
- 飛騨山脈ジオパークの拠点（ジオサイト）の案内標識の整備を検討。

① 質の高いガイド人材の育成

中部山岳国立公園の来訪者に対して、その魅力を語り、伝えるガイド人材の育成を進めます。なお、国立公園と同一のエリアで飛騨山脈ジオパーク構想の取組みが進められており、ジオパークの魅力を語ることでできるガイド人材の育成も必要となっていることから、連携して人材育成を進めることとします。

また、海外からの訪問者に対して、母国語でその魅力を語ることでできる外国人ガイドの活躍の場の確保を進めます。

【取組み】

- 新たに整備するビジターセンターにおいて、レベルに応じた自然系ガイド人材の養成講座を開催。
- 中部山岳国立公園の魅力を体験できるガイドプログラムの作成。
- 中部山岳国立公園における外国人ガイドの活躍の場の確保を促進。併せて、特例通訳案内士向けの研修など、多言語対応が可能な日本人ガイドの養成に向けた取組みを促進。
- 自然や山岳の魅力とあわせて、飛騨山脈ジオパークの魅力を語ることでできるガイド人材を育成。

② 参加型の環境保全・登山道整備の推進

地域住民と中部山岳国立公園を愛する人々が連携して、自然環境や登山道を持続的に維持するため、従来から行われている環境美化・登山道維持活動に加えて、リピーターやこの地域のファンなど、公園の利用者が参加できる環境保全・登山道整備活動を積極的に進めます。

【取組み】

- 国立公園内における外来種の除去、清掃活動などの環境保全活動や登山道の維持補修活動を継続的に実施。活動予定情報の提供などを通じ、リピーターや地域のファンなどの国立公園利用者の積極的にボランティア参加を促進。
- クラウドファンディング（民間資金）を活用した利用者参加型の乗鞍岳平湯登山道の整備を継続して実施。

(3) イメージ戦略の構築と情報発信・プロモーション

中部山岳国立公園への来訪者の増加を図るためには、本章(2)で掲げた施策を着実に実行し、同公園の魅力を高めることが必要ですが、同時に、国内外における認知度を高め、多くの方の訪問意欲を喚起できるよう、戦略的に情報発信や誘客プロモーションを行っていく必要があります。

そこで、山岳、大自然、温泉といった同公園の多様な見どころを包括する統一イメージ(ブランド)の構築などのイメージ戦略を検討しながら、来訪者の属性や嗜好等に即した的確な情報発信や誘客に向けたプロモーションを積極的に進めます。

① イメージ戦略の構築

中部山岳国立公園の本県エリアは、乗鞍岳、槍・穂高連峰、新穂高ロープウェイや奥飛騨温泉郷などの見どころが広範囲に広がっていますが、それらを包括する地域の統一的なイメージが形成されていません。

そこで、例えば、誰が聞いてもイメージできる愛称(日本語・英語)やロゴマークの検討など、統一的な地域イメージの形成(ブランド化)を図るうえで必要な取組みの検討など、地域のイメージ戦略の構築に向けた取組みを進めます。

【取組み】

- 誰が聞いてもイメージできる中部山岳国立公園の愛称(日本語・英語)や地域共通のロゴマークなど、統一的な地域イメージ形成に向けた取組みの検討
- 戦略的な案内標識の配置など、国立公園の一体感・特別感を演出するための取組みの検討

② 積極的な情報発信

中部山岳国立公園の魅力については、現在、一元的に情報を発信するプラットフォームが存在していません。また、多言語による情報提供が十分とは言えない状況にあります。

そこで、来訪者に対して、新たなビジターセンターと各拠点の利用施設や観光協会等が連携して情報発信を行うとともに、インターネットやSNSを活用した一体的な情報発信について、関係者間で検討を進めます。

【取組み】

- 平湯地区ビジターセンターと各地域(乗鞍・新穂高等)の利用施設や観光団体との連携による一体的な情報発信を推進。統一的な情報発信のあり方についても検討。
- ウェブサイト、ブログ、SNS等の多様な媒体を通じた見どころ等の情報発信を継続して実施。

③ 誘客に向けたプロモーションの推進

中部山岳国立公園への誘客を進めるため、関係者が協力して積極的なプロモーションを進めます。

【取組み】

- メディア、アウトドアメーカーや交通事業者等との連携による旅行商品の造成や誘客プロモーション活動を推進。
- 首都圏、関西圏、中京圏において、中部山岳国立公園や奥飛騨温泉郷の認知度を高め、誘客PRを継続して実施。
 - ・主要駅や電車・バスへのポスター掲出、パンフレット配架
 - ・主要駅周辺のデジタルサイネージ等を通じた宣伝広告
 - ・テレビやラジオを通じた宣伝広告
 - ・旅行関係誌等への記事広告の掲載
 - ・都市圏のイベントスペースや観光展示会等における誘客イベント開催 等

(4) スケジュール

本計画において示したそれぞれの取組みについては、下記のスケジュールにより進めることとします。

施策		年 度					
		2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)	2021 (H33)	2022 (H34)	
「知る」	1-1 豊かな地域の魅力を知り、誇りを醸成	①	豊かな自然を知り、誇りを醸成する経験機会の創出				
		②	飛騨山脈ジオパーク構想の取組推進				
	1-2 飛騨山脈の「大地と自然の恵み」を学ぶ	①	大学や研究機関との連携				
		②	環境教育の推進				
「創る」	2-1 乗鞍・奥飛騨の魅力の発掘・磨き上げ・発信	①	魅力ある体験プログラムの造成				
		②	ONSEN・ガストロノミーツーリズムの推進				
		③	誰でも容易に到達できる日本最高所の進化				
		④	最先端の情報技術を活用したアプリケーションの開発研究				
		⑤	温泉地の賑わいづくり				
		⑥	安全・安心な登山環境づくり（駐車場関係）				
		⑥	安全・安心な登山環境づくり（山岳遭難防止・火山防災関係）				
		⑦	景観の改善の検討				
	⑧	二次交通の充実					
	2-2 持続的な活力の創出	①	高山市中心市街地と国立公園のシームレス化				
②		人材の交流、活躍の場づくり					
「伝える」	3-1 自然の保護と利用の両立	①	総合的な利用拠点（ビジターセンター）の整備				
		②	乗鞍岳の環境保全対策の進化				
		③	自然公園施設の整備				
		④	案内標識の整備				
	3-2 乗鞍・奥飛騨の魅力を守り伝える人づくり	①	質の高いガイド人材の育成				
		②	参加型の環境保全・登山道整備の推進				
イメージ戦略の構築と情報発信・プロモーション	①	イメージ戦略の構築					
	②	積極的な情報発信					
	③	プロモーション					

第5章 計画の推進

(1) 各主体の役割

この計画は、中部山岳国立公園の活性化を図ることにより、持続可能な地域づくりを進めることを目的としており、計画の事業主体である国、県、市、地元関係団体はもとより、地域の担い手である住民・事業者の方々も、活性化を進めるうえでの重要な主体となります。

各主体が一体となって、地域の機運を高めながら、取組みを進めるため、主体ごとの役割を次のとおり整理しました。

表 各主体の役割

主 体	役 割
環境省	<p>国立公園の保護と適正な利用を図るため、公園管理計画を策定し、必要な規制や保護対策を行うとともに、自ら利用施設の整備・管理を行います。</p> <p>また、県・市等が行う利用施設の整備に対する支援を行うとともに、中部山岳国立公園南部地域利用推進協議会等を通じて、同公園南部地域全体の利用促進を図ります。</p>
林野庁	<p>国民共有の財産である国有林の管理者として、中部山岳国立公園の大半を占める国有林の管理を行うとともに、森林の役割に応じた適正な利用を促進します。</p>
岐阜県	<p>ビジターセンターや乗鞍鶴ヶ池駐車場等の利用施設の整備・管理を行うとともに、自然環境を保護しながら、国立公園の利用を増進するための事業を行います。</p> <p>また、県民に対する環境教育の観点から、県内学校における環境教育や環境教育人材の育成を推進します。</p> <p>加えて、自然・温泉などの優れた自然環境を活かした魅力づくりや国内外からの誘客を推進します。</p>
高山市	<p>乗鞍山麓五色ヶ原の森等の利用施設の整備・管理を行うとともに、地域の関係者と連携して、国立公園及び周辺地域の魅力を磨き、発信するための総合的な取組みを推進します。</p> <p>また、学校教育をはじめとして、地域住民の誇りを高めるための取組みを推進します。</p> <p>加えて、県と連携して、自然・温泉などの優れた自然環境を活かした魅力づくりや国内外からの誘客を推進します。</p>
地元関係団体	<p>行政と連携しながら、観光誘客、環境保全、登山道の維持管理、ガイド人材の育成等、各団体の設置目的に沿った活性化の取組みを推進します。</p>

住民・事業者	<p>活性化に向けた取組主体の一員であることを理解して、情報発信に努めるとともに、行政や地元関係団体が行う取組みに積極的に参加し、活性化に向けた気運の醸成を図ります。</p> <p>また、コミュニティ・ビジネスなどの手法を駆使して、多様な形態での活性化を進めます。</p>
--------	--

(2) 計画の実行

各主体は、それぞれの役割を認識し、相互に連携しながら、この計画に基づいて積極的に取組みを進めます。

(3) 協議会の設立

地域一体となって、この計画の推進を図るため、県は、関係行政機関及び関係団体等を構成員とする「岐阜県中部山岳国立公園活性化協議会（仮称）」を設立します。

この協議会は、この計画の進捗管理を行うとともに（(4) 参照）、各主体間の定期的な情報共有を図り、地域一体となった取組みを進めるための実質的な協議・調整の場として機能することを目指します。

(4) 計画の進捗管理

取組みの実施状況やその効果については、岐阜県中部山岳国立公園活性化協議会（仮称）において、検証を行いながら、取組内容の見直しや新たな取組みの追加を機動的に行います。

また、計画の見直しが必要となった場合には、同協議会の意見を聞いたうえで、必要な見直しを行うものとします。

第6章 広域連携

中部山岳国立公園の本県区域は、大部分が長野県と隣接しており、上高地や乗鞍高原といった長野県側の拠点との連携を図ることが非常に重要です。

平成 29(2017)年 10 月には、環境省の主唱により、岐阜・長野両県にまたがる同公園南部地域の利用推進を図ることを目的として、関係行政機関・団体を構成員とする「中部山岳国立公園南部地域利用推進協議会」が設立されました。

この計画の推進に当たっては、こうした協議会の場等を通じて、隣接する長野県内の関係機関・団体との情報共有を図りながら、積極的な広域連携を図るものとしします。

また、環境省をはじめ、同公園の構成県である新潟県や富山県、更には関係団体等とも協調しながら、同公園全体の発信力強化やブランドイメージの向上に努めるものとしします。

参考資料

1 中部山岳国立公園（岐阜県区域）の概況

所在地 高山市、飛騨市

面積 24,219ヘクタール

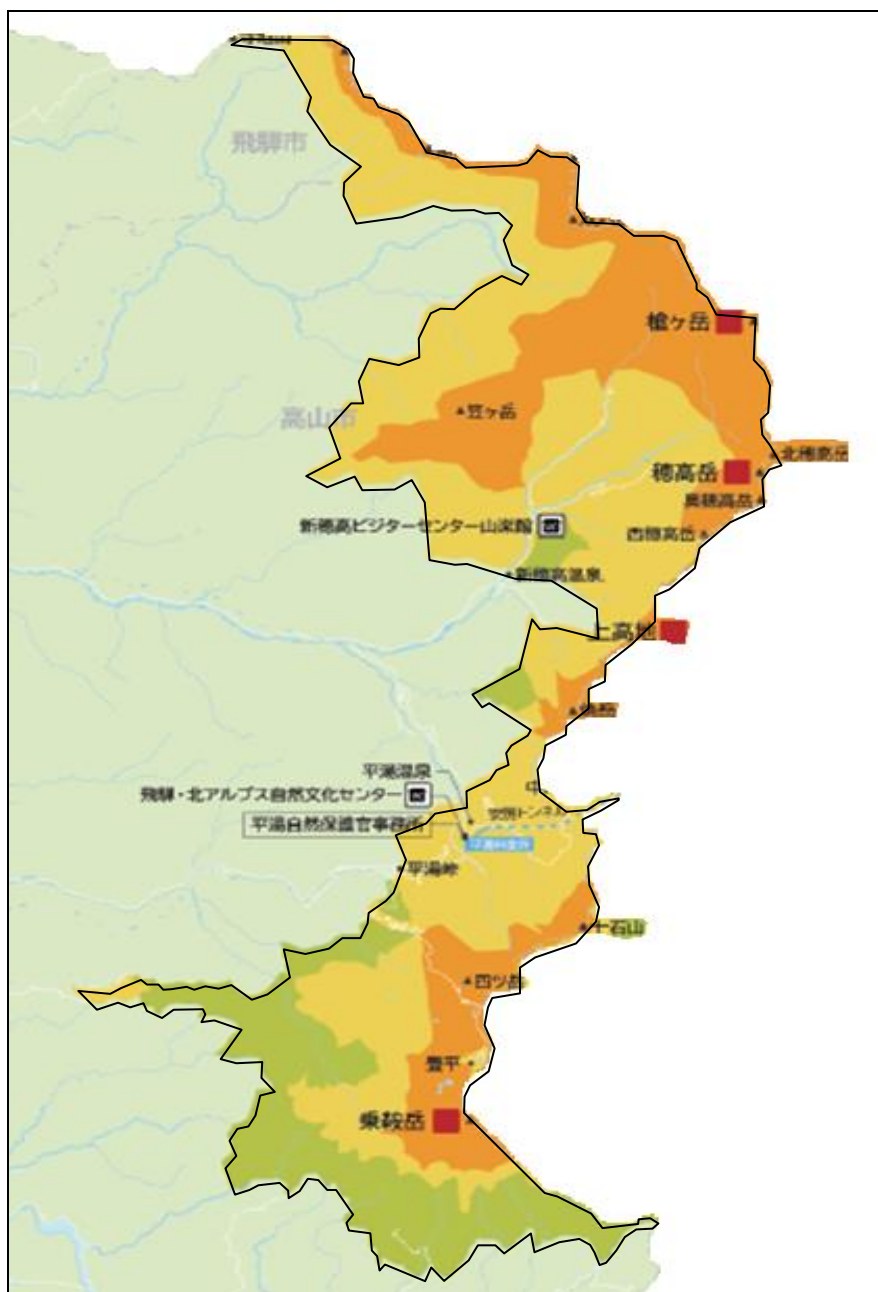
(うち)特別保護地区 6,956ha、特別地域(第1種～第3種) 12,856ha、
普通地域 4,407ha

指定年月日 昭和9年12月4日

■ 中部山岳国立公園指定区域（岐阜県）

<図の見方>

- ・黒枠の内部が中部山岳国立公園の指定区域である。
- ・橙色：特別保護地区、黄色：特別地域（第1種～第3種）、緑色：普通地域



参考資料

2 岐阜県中部山岳国立公園活性化懇談会

(1) 委員名簿

(五十音順・敬称略)

氏名	役職
小川 正人	(株)ANA総合研究所取締役会長
北村 斉	高山商工会議所会頭
國島 芳明	高山市長
小瀬 慶孝	一般社団法人奥飛騨温泉郷観光協会理事長
小林 千穂	女性山岳ライター、山岳ガイド
齋藤 尚正	濃飛乗合自動車(株)代表取締役社長
坂本 和隆	林野庁中部森林管理局飛騨森林管理署長
辻野 啓一	特定非営利活動法人日本エコツーリズム協会理事・事務局長
寺崎 竜雄	公益財団法人日本交通公社理事・観光地域研究部長
中西 伸一	飛騨乗鞍観光協会会長
中山 隆治	環境省長野自然環境事務所長
野添 ちかこ	一般社団法人温泉協会理事
堀 泰則	一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会会長
涌井 史郎	岐阜県立森林文化アカデミー学長

(2) 開催実績

第1回 平成29年7月7日(金)

- ・岐阜県中部山岳国立公園活性化基本構想(案)について

第2回 平成29年12月18日(金)

- ・岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画(案)について

参考資料

3 取組項目ごとの事業内容・スケジュール（H30～34）

- ・本計画の策定時点において、取組項目ごとの個別事業については、次のとおり想定している。ただし、事業の実施時期、主体については、今後、変動することがある。
- ・また、取組みの検証等、計画の進捗管理を行う過程で、事業内容自体が変更となる可能性もある。（新たな取組みの追加、事業中止等）

【取組方針1】豊かな地域資源を「知る」						
1-1 豊かな地域の魅力を知り、誇りを醸成 / ①豊かな自然を知り、誇りを醸成する経験機会の創出						
想定事業	実施主体	H30	H31	H32	H33	H34
○地域の魅力体感ツアー	市	→	→	→	→	→
○ぎふ清流未来の会議	県	→	→	→	→	→
○開山、登山道路等の歴史の学習機会の創出	関係団体	→	→	→	→	→
1-1 豊かな地域の魅力を知り、誇りを醸成 / ②飛騨山脈ジオパーク構想の推進						
想定事業	実施主体	H30	H31	H32	H33	H34
○飛騨山脈ジオパーク構想の取組み推進	市、ジオパーク協議会	→	→	→	→	→
○ジオパーク学習プログラムの推進	ジオパーク協議会	→	→	→	→	→
○ジオツアープログラム造成・ガイド養成	ジオパーク協議会、観光協会(奥飛騨)	→	→	→	→	→
○ビジターセンターにおける展示、学習会	県、協議会		→	→	→	→
1-2 飛騨山脈の「大地と自然の恵み」を学ぶ / ①大学や研究機関との連携強化						
想定事業	実施主体	H30	H31	H32	H33	H34
○観測・研究施設との連携交流の促進	県、市、協議会		→	→	→	→
○ビジターセンターにおける展示等	県		→	→	→	→
1-2 飛騨山脈の「大地と自然の恵み」を学ぶ / ②環境教育の推進						
想定事業	実施主体	H30	H31	H32	H33	H34
○環境教育プログラムの構築（乗鞍）	県	→				
○環境教育プログラムの構築（温泉、地質等）	県	→				
○乗鞍岳における環境教育支援制度の構築	県		→	→	→	→
○自然環境教育、出前講座等の推進	県、市	→	→	→	→	→
○教育プログラムを活かした教育旅行の誘致	市、各観光協会		→	→	→	→

【取組方針2】強みを活かし、魅力・活力を「創る」						
2-1 乗鞍・奥飛騨の魅力の発掘・磨き上げ・発信 / ①魅力ある体験プログラムの造成						
想定事業	実施主体	H30	H31	H32	H33	H34
○乗鞍岳でのガイドプログラムの造成	県、市、地元関係団体	→	→	→	→	→
○星空観察会の開催	市、各観光協会・旅館組合、民間企業	→	→	→	→	→
○ライチョウ保護の取組等を学ぶツアー	県	→	→	→	→	→
2-1 乗鞍・奥飛騨の魅力の発掘・磨き上げ・発信 / ②ONSEN・ガストロノミーツーリズムの推進						
想定事業	実施主体	H30	H31	H32	H33	H34
○平湯温泉におけるウォーキングイベント	機構、観光協会（平湯）	→	→	→	→	→
○奥飛騨温泉郷全体における展開	県、市、観光協会（奥飛騨）	→	→	→	→	→
2-1 乗鞍・奥飛騨の魅力の発掘・磨き上げ・発信 / ③誰でも容易に到達できる日本最高所の進化						
想定事業	実施主体	H30	H31	H32	H33	H34
○乗鞍畳平バスターミナル改修の検討	市	→	→	→	→	→
○乗鞍畳平お花畑木道の改修	環境省	→	→	→	→	→
○ユニバーサルデザイン化（鶴ヶ池歩道を含む）	県	→	→	→	→	→
○畳平・剣ヶ峰の無料 Wi-Fi 整備	県	→	→	→	→	→
○外国語対応の案内標識の設置	環境省、県、市	→	→	→	→	→
○乗鞍肩の小屋トイレの改修	県	→	→	→	→	→
2-1 乗鞍・奥飛騨の魅力の発掘・磨き上げ・発信 / ④最先端の情報技術を活用したアプリケーションの開発研究						
想定事業	実施主体	H30	H31	H32	H33	H34
○天候不良時でも魅力を体感できる技術開発研究	県、情報科学芸術大学院大学	→	→	→	→	→
2-1 乗鞍・奥飛騨の魅力の発掘・磨き上げ・発信 / ⑤温泉地の賑わいづくり						
想定事業	実施主体	H30	H31	H32	H33	H34
○温泉地ごとの誘客イベント	各温泉地（観光協会）	→	→	→	→	→
○温泉めぐり（温泉めぐり手形、無料開放等）	観光協会（奥飛騨）	→	→	→	→	→
○体験メニューのプログラム化	観光協会（奥飛騨）、事業者	→	→	→	→	→
○温泉効用の多言語表記と周知方法の検討	市、観光協会（奥飛騨）、事業者	→	→	→	→	→
○ウォーキング・サイクリングと温泉の融合	観光協会（奥飛騨）	→	→	→	→	→
○温泉熱等を活かした食の開発	事業者	→	→	→	→	→

2-1 乗鞍・奥飛騨の魅力を発掘・磨き上げ・発信 / ⑥安全・安心な登山環境づくり						
想定事業	実施主体	H30	H31	H32	H33	H34
○山岳遭難防止に向けたパトロール、啓発活動	県、市、関係団体	→	→	→	→	→
○新穂高地区の駐車場対策の在り方検討	県、市、関係団体		→	→		
○火山防災対策	県、市（火山防災協議会）	→	→	→	→	→
○火山噴火の警戒区域内施設の安全対策	県、市	→	→	→	→	→
2-1 乗鞍・奥飛騨の魅力を発掘・磨き上げ・発信 / ⑦景観の改善の検討						
想定事業	実施主体	H30	H31	H32	H33	H34
○市景観計画に基づく景観形成取組推進	市、事業者	→	→	→	→	→
○無電柱化、屋外広告物の集約化等の検討	市	→	→	→	→	→
2-1 乗鞍・奥飛騨の魅力を発掘・磨き上げ・発信 / ⑧二次交通の充実						
想定事業	実施主体	H30	H31	H32	H33	H34
○国立公園南部地域の二次交通充実の検討	市、交通事業者等（研究会）	→				
○周遊できるバス特別乗車券の企画・販売	交通事業者	→	→	→	→	→
○バスと宿泊をセットにした商品の販売	交通事業者	→	→	→	→	→
2-2 持続的な活力の創出 / ①高山市中心市街地と中部山岳国立公園のシームレス化						
想定事業	実施主体	H30	H31	H32	H33	H34
○観光案内拠点の連携による情報の相互提供	県、市、各観光協会、事業者	→	→	→	→	→
○市街地と国立公園を結ぶバス交通商品の開発検討	交通事業者	→	→	→	→	→
○トレイル・サイクリングルートの開発検討	商工会議所、観光協会	→	→	→	→	→
2-2 持続的な活力の創出 / ②人材の交流・活躍の場づくり						
想定事業	実施主体	H30	H31	H32	H33	H34
○大学等のフィールド研究・教育活動の誘致	飛騨高山大学連携センター	→	→	→	→	→
○人材の活躍の場づくりの検討	関係者	→	→	→	→	→
○ビジターセンターの安定的な運営体制の構築	県	→	→	→	→	→

【取組方針3】乗鞍・奥飛騨らしさを守り、後世に「伝える」						
3-1 自然の保護と利用の両立 / ①総合的な利用拠点（ビジターセンター）の整備						
想定事業	実施主体	H30	H31	H32	H33	H34
○ビジターセンターの整備	県	→				
3-1 自然の保護と利用の両立 / ②乗鞍岳の環境保全対策の進化						
想定事業	実施主体	H30	H31	H32	H33	H34
○環境保全施策の情報発信とブランド化推進	県、市	→				
○乗鞍岳の自動車利用の在り方の検討	乗鞍自動車利用適正化協議会	→				
○ライチョウ保護の取組等を学ぶツアー	県	→				
3-1 自然の保護と利用の両立 / ③快適な自然公園施設の整備						
想定事業	実施主体	H30	H31	H32	H33	H34
○トイレの快適性の向上	環境省、県、市、民間山小屋	→				
○登山道の整備	環境省、県、市、関係機関	→				
○案内標識の整備（多言語化・デザイン統一含む）	環境省、県、市	→				
○ジオパーク標識の整備検討	市、ジオパーク協議会	→				
3-2 乗鞍・奥飛騨の魅力を守り伝える人づくり / ①質の高いガイド人材の育成						
想定事業	実施主体	H30	H31	H32	H33	H34
○自然ガイド人材の養成講座開催	県、市、関係団体	→				
○ガイドプログラムの作成	県、市、関係団体	→				
○外国人ガイドの活用検討	県	→				
○ジオパークガイド人材の育成	ジオパーク協議会、観光協会（奥飛騨）	→				
3-2 乗鞍・奥飛騨の魅力を守り伝える人づくり / ②参加型の環境保全・登山道整備の推進						
想定事業	実施主体	H30	H31	H32	H33	H34
○国立公園内の外来種除去活動	市、関係団体	→				
○登山道の維持補修活動	市、関係団体	→				
○ボランティアによる外来種除去活動等検討	市、関係団体	→				
○民間資金を活用した利用者参加型登山道整備	観光協会（平湯）	→				
イメージ戦略の構築と情報発信・プロモーション						
想定事業	実施主体	H30	H31	H32	H33	H34
○イメージ戦略の構築	関係機関、団体	→				
○積極的な情報発信	県、市、各観光協会、事業者	→				
○プロモーション	県、市、各観光協会、事業者	→				

岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画

岐阜県 環境生活部環境企画課

〒500-8570 岐阜市藪田南2丁目1番1号
電話 058-272-1111（代表）